

アイドル
永井康徳

永井重之、9、4、12、3日生、
中里の家では、最年少です。親の私の方の
自、おくぐりまじいですが、とて自ら愛らしい
息子です。鶴山小学四年生。いま、その
時、生徒連、女子の方が多か、大、よく遊
んでも、いま、その時、やさしい子
がいる。と、他人を見て、いま、
本巻は、小学部三年、高学部一、月、そ

の間の学校では、生徒連より、先生との行
合が多く、左、先生はもうらん、僕、
転転、先生が、新しい程、
（女、今、中里の家では、明るく、ほか
で、いるから、と、仕事、
捕、負、方、よく、
の子、は、多く、人、達、
と、僕、が、出る、思、い、
お、水、で、目、今の、立、場、を、忘、れ、な、い、
は、い、け、な、い、と、噛、み、し、め、日、曜、日、は、必、ず、面、会

腐江と離れて思うこと

森井千代子

「腐江姉ちゃんはお嫁に行、
あ、そうか、と、い、う、て、僕、を、結、婚、式、に、つ、れ、て、い
つ、て、く、れ、な、か、っ、た、の、か、？、と、い、う、は、腐
江、が、中、里、の、家、へ、入、所、し、た、は、かり、の、四、月、の、あ、る
日、五、月、の、期、と、私、の、会、話、です、
お、か、せ、者、腐、江、が、や、さ、しい、施、設、長、之、人、は
し、め、先、生、方、や、お、友、達、と、こ、ま、使、っ、て、い、る、の、で
は、？、そ、ん、な、思、い、が、一、日、中、頭、の、中、か、る、離、れ、ま、せ

人、と、な、り、な、体、で、差、人、で、と、私、に、う、ら、み、事、を
さ、う、言、葉、す、う、持、た、ない、腐、江、。、そ、ん、な、腐、江、の、ま
り、で、。、た、だ、う、ら、う、う、ら、う、さ、る、だ、け、の、意、気、地、の、な
い、母親、です、と、人、な、に、仕、え、て、も、償、う、事、は、出、来
ない、で、し、ょう、。、今、は、そ、の、た、た、一、つ、腐、江、に
仕、え、る、事、す、ら、若、い、先、生、方、に、肩、替、わ、り、を、し、て
い、た、ら、ま、。、そ、れ、以、上、に、親、に、は、何、一、つ、出、来、な
か、た、身、辺、の、指、導、や、家、庭、の、中、で、は、味、わ、え、な
か、つ、た、規則、正、しい、生活、の、中、で、腐、江、な、り、の、居、
脚、の、善、い、と、感、じ、な、が、う、毎、日、を、過、こ、ま、せ、て、い、た

行く様心掛て居ます。前会に行くは、
人、も、廊、下、を、駆、け、な、か、う、。、花、が、男、人、を、来、て、く、水
。、又、滞、る、時、は、握、手、し、て、。、ま、又、日、曜、日、面
会、に、く、る、か、う、ぬ、と、言、う、と、。、花、し、そ、う、な、親、を、し
て、見、送、つ、て、く、ら、ま、す、。、少、く、下、登、想、を、さ、も、す、る
か、。、村、来、の、共、に、が、ま、ん、し、て、ら、い、た、い、と、思、う
。、私、も、疲、れ、な、い、な、い、蘇、が、ン、バ、ッ、チ、い、き、た、い、と
思、い、ま、す、。、二、水、が、ン、親、子、を、ま、ま、直、に、く、お、顔、
致、し、ま、す、。



だ、い、て、お、り、ま、す、。、悲、知、な、親、に、と、り、ま、し、て、は、誠
に、あ、り、か、た、い、事、で、ご、ざ、い、ま、す、。

施設長さんが、いつもおっしゃって下さる
て、お、り、ま、す、。、お、人、の、子、供、の、親、と、い、う、お、言、葉
何、と、有、難、い、お、言、葉、で、し、ょう、。、私、に、は、腐、江、一、人
の、親、と、し、て、何、が、出、来、な、い、か、と、も、知、り、か、し
い、の、で、す、。、腐、江、腐、江、と、思、う、心、を、中、里、一、家
。、。、家、族、の、一、員、と、し、て、。、施設、長、之、人、や、先、生
方、。、職、員、の、皆、々、様、方、の、広、い、広、い、お、心、に、。、ほ、ん
の、少、し、で、も、並、ぶ、く、事、が、出、来、た、ら、と、こ、れ、か、ら
の、私、の、大、き、な、課題、です、。



そしてお嫁に行、た腐江の、里帰りする日
を、楽、し、み、に、し、て、い、る、我、が、家、の、家、族、です、。

ボウリングの家族



昭和五十二年、とんを降る、重い子にも教育と、という長年の「夢」が養護学校に通うことと実現し、在任降る見の家庭の外、新しい世界に勇気を持って飛び出し、生涯のかわり、待つ素晴らしい仲間との出会いがありまし。そして先生方の指導により、一つ一つ体験を積み重ねながら自分なりの世界を広げていきました。本当に親と子が共に育つ「共育の場」でした。喜んでいただいたのも、共育の場、学校には卒業という別れがあることを知り愕然とい。たしました。年月をかりて培ってきたことが、又深い連帯感で結ばれた仲間との別れが私の夢をしばらせてしまいました。その時「仲間と共に生きる場」の重要性を痛感したので、卒業PTAとして研修会に出席し、連絡問題を討議した時、東北で実施地作りをされた方が、「たすをこまねいていて施設ができないのを待つていたのは何時になつていてもできません。一日でも早く親が立ち上つて行動しなければ」と云われました。その話を早

送行を帰ってPTAで話し合ったのは七年前のことでした。頭の中では何ともしなければとあせつても、重の上り本業に思えましました。今まで口では言い現せず、いことが深山里にました。夢のような話が実現して施設に入所することになりました。現在の幸は教員の方々の努力と善意とご協力の所産と心に言い聞かせ、感謝の気持ちで毎日過ごしておりました。福祉に深い理解を不持ちの施設長さんには、五人の園生を「自分の子ども」として私達に話して下さりました。本当に有難いことでした。取真の方々も同じ家族の兄弟さん、お姉さんとして園生に温い気持ちで接して下さり、私達に心から望んだ家庭的な雰囲気の中で、明るく伸び伸びと過ごせていたのだいて取りました。この幸の輪を広げていく上にも私達保護者が更に一体となって協力していかなければいけません。そして子ども自身に一日でも長生きをして帰省してくる「場」をしっかりと作りつておくことが親の務めであると心しておりました。

思うままに

山崎 せを和

直も去り春の訪れも近づいて参りました。思入はひ年々一々、授けて室内で参りての祝福も、肉親が子の不慮と知り心を痛め、長い年月に亘り子供の事を念じて居る思いが溢れてまいりました。中里の坂の建設も一生、大きな願いでありました。広域圏の皆様の温かい御理解の許に、早期に完成されました。不甲斐な子を待つ親として本心で心の安らぎを感じ感謝の念一杯でございませす。入所以来、年近くに在り、母不敏な子、故に愛情倍のして訓育し、在任中に入所時別れが、つづく夜の明け暮れに、通さるはれる涙の連続、月々として表現出来な人、幸として名施設長さん、皆の御職員の、又手不足の中に五十人の親と在った。中里をモトローに心温る御指導を賜り、何と御礼申し上げます。いよいよやがて判りません。今私共虹の合、い、かよわい子供達、在めた一歩を多歩か、いと思ひます。どうもありがとうございます。

